地域おこし協力隊活動報告

昨年8月から地域おこし協力隊として活動する宮木源さんと青山達也さんは、黒保根町の地域活性化に取り組んでいます。

今号では、桐生市社会福祉協議会黒保根支所担当の宮木さんの活動を紹介します。

問い合わせは、黒保根支所市民生活課庶務・税務係（☎96 2111）へ。

「黒保根で迎える初めての桜の季節が楽しみです」と話す宮木さんは、神奈川県藤沢市の出身で、大学卒業後、フィリピンにある日本大使館付属の小学校で教員として働いていました。

フィリピンで教員をしていたとき、日本での地域おこし協力隊の制度を知って興味を持ち、帰国後、桐生市での募集に応募し、協力隊員として任命されました。

桐生にゆかりのなかった宮木さんですが、「これまで黒保根支所の職員の皆さんや社会福祉協議会の皆さんに連れられて、町内の色々なイベントや集まりなど、様々な場所で私を紹介していただきました。おかげさまで赴任して1年も経っていませんが、多くの人に顔を覚えてもらえるようになった気がします」といい、また、教員として働いていた経験を生かし、町内の小・中学校の行事や放課後児童クラブの活動にも参加しているそうで、「子供からお年寄りまで、幅広い年齢の人とここまで知り合いになれたのも支援いただいた皆さんのおかげ」と話してくれました。

単独で行動することも多くなった今では、高齢者のお宅を訪ねたり、グラウンドゴルフに参加するなど、積極的に地域の皆さんとふれあう機会を多くもてるよう努力しているそうです。そうした活動の中から「例えば、ここでお茶をしているなどのお誘いをいただき、そこへ参加して、今まで知らなかった様々な人と、新たにつながっていくことがとても面白く感じています」と、活動に手応えを感じている様子でした。

また、「高齢者のお宅で世間話をするという活動は、高齢者にとっては生活に張りを持たせる貴重な時間となっているようです。どの人も訪問するたびに喜んで家に招き入れてくださるし、話を聞いているときも心から楽しいという気持ちが表れていて、私も充実した時間を過ごすことができるので、逆に感謝したいほどです」と話してくれました。

「黒保根に来て、自然や、まちの人の温かさにふれることができた」という宮木さん、「これから私にとって黒保根で初めての桜の季節を迎え、木々の色づきや、地域の活動など、起こること全てを楽しみにしています。そのような中で、私自身の活動もより活発にしていきたいと思っています。これまで、少しずつ築き上げてきたつながりも生かし、より多くの人と関わっていきたい」と語り、「任期を終えた後に、私が来る前よりも何かが変わっているように、そのために私に何ができるのか、今からよく考えて日々の活動に取り組んでいきたい」と、抱負を語ってくれました。

桐生市社会福祉協議会 黒保根支所

住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを目指し、様々な地域福祉活動を推進しています。

主な事業としては、地域での仲間づくり、つながりをつくるための高齢者サロンを開催し、高齢者の引きこもりや孤立の防止、地域での居場所づくりと介護予防に取り組んでいます。

その他、黒保根老人休養センターの運営や老人クラブなど福祉団体の事務局を担当し、活動を支援しています。

地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化などに悩む自治体が、都市住民を任期最長3年間で受け入れ、委嘱します。自治体は協力隊員に農林漁業の応援、住民の生活支援などの「地域協力活動」に従事してもらいながら、その地域への定住・定着を図り、地域の充実・強化を目指します。

平成21年度に創設された制度で、平成27年度は全国673の自治体で2,625人の協力隊員が活動しています。